藻類 Jpn. J. Phycol. (Sôrui) 46:132, July 10, 1998

平岡雅規：国際海藻シンポジウムに参加して

関西空港からフィリピン・セブ島には，直行便で4時間ほどで，ちょうど機内で上映されていた映画が終わるころに到着したが，東京から来られた一行はマニラで予定していたセブ行に乗れずさんざんだったと疲れた様子でホテルに夜8時半，日本時間で9時半に到着された。4月13日の午前中にオープニングセレモニーがあり，シンポジウムが始まった。シンポジウム期間中はずっと快晴で暑い日が続いた。学会発表の内容は有用海藻の応用に関するものが多く，特に，フィリピンの海藻資源がキリンサイであるだけに，キリンサイに関するものが目立った。ポスターセッションは印刷技術の向上で見事なものが多かった。今回初めて国際学会に参加したが，思ったほど大層なものではなく内容的には日本での学会と大して変わらないように感じられた。見学ツアーでは，キリンサイの養殖現場の見学に出かけた。船で2時間，船首近くに座った人達はずぶ濡れになりながら，左右に小島を見て青い海をまっすぐ進んだ。海上に建てられた家屋にキリンサイは集められ，太陽の光で乾燥させていた。キリンサイの日間成長量は10%前後で，すざましい勢いで大きくなる。この海藻はいくらでも増えるのだから利用しないてはない。キリンサイから抽出されるカラギーナンは増粘剤として，食品，化粧品，歯磨き粉，医薬品などあらゆるものに利用されている。今回のシンポジウムでははじめての試みとして，海藻を利用した商品の展示，販売が国際海藻協会・日本支部によって行われた。販売を少しばかりお手伝いしたが，なかなか好評で日本の海藻食品，化粧品等に興味を示される方が多かった。セブでの滞在は1週間であったが，あっという間に最終日となった。日本人グループでグッバイパーティが催され，高知大に留学した元学生5名も加わりテーブルを囲んだが，「日本の学生は他の国の研究者と話をしない。」という意見が出て日本人研究者の在り方が話題となり，反省会になった。そのとき，「日本の研究者，特に水産試験場などに素晴しい仕事があるのに，その仕事は日本語で発表されるため広く知られていないのは残念だ。英語で発表してほしい。」という中国人研究者の意見が出た。日本人にとって言葉の壁は高いけれども，壁をなくすよう努力しようということでみなさん一致したようだった。3年後はケープタウンでシンポジウムが行われる。私個人としては，フィリピンの女性のダンスは魅惑的で，また，バンブーダンスが楽しかったのでアフリカのダンスに期待している。

（799-31愛媛県伊予市森728　マリン・グリーンズ株式会社）

キリンサイの養殖場にて